

昭和三十一年一月二十八日招集
第一回市議會臨時會會議錄

館山市議会第一回臨時会々議録(第一号)

昭和三十八年一月招集

一月二十八日(月曜日)

一 現在議員三三名でその氏名次の通り。

一番	山本 昇	二番	石井 孝
三番	三沢 節	四番	小林寅之助
五番	江田徳太郎	六番	鈴木彦太郎
九番	吉田勇治郎	一〇番	佐野 信
一二番	嶋貫壮作	一三番	安沢徳順
一四番	法木嗣郎	一五番	嶋田 繁
一六番	遠山ヨネ子	一七番	志村信作
一八番	安西政治	一九番	田中忠蔵
二〇番	北山茂雄	二一番	後藤ゆき
二二番	田中祿郎	二三番	吉田辰雄

二四番 飯田義男 二五番 脇田順一

二六番 岩崎靜敬 二七番 鈴木市蔵

二八番 加藤良太郎 二九番 萩生田七郎

三〇番 長谷川光江 三一番 田村喜久工

三二番 鈴木孝 三三番 山口幸三

三四番 松本藤太郎 三五番 黒川佐太郎

三六番 山口康

一 議事日程(第一号)

第一 市長施政方針並びに議案説明

第二 議案第一号 統務委員会委員長報告

第三 議案第一号 館山高等学校校舎増築工事請負契

約の締結について

議案第二号 簡易水道事業実施について

議案第三号 特別会計の設置について

議案第四号

昭和三七年度館山市特別会計鉅切簡易水道事業文入文出予算

第四人議案第五号

鉅切簡易水道工事設計委託契約の締結について

議案第六号

鉅切簡易水道測量工事請負契約の締結について

議案第七号

寄附金の収受について

第五議案第八号

昭和三七年度館山市文入文出追加予算

第六議案第九号

固定資産評価審査委員会委員の選任について

第七

昭和三十八年二月臨時出納検査委員会議員の互選について

一、法等百二十一条による出席説明員

市

長

本内 讓

助 役

小出武男

総務課長

山口 実

税務第一課長

高木 哲三

厚生課長

伊藤幸太郎

一本議会の事務局長書記及び取員

事務局長

高梨清一

書記

太田博雄

同 取 員

兵藤恭一
錦織睦子

一出席議員 三二名

一欠席議員 一名

三一番 田村喜兵衛

午前十時開会

議長(山本昇君)本日の出席議員数二八名

こより昭和三八年度第一回市議会臨時会と
南会いたします。

本臨時会の議案説明のため本間市長、小出助彦
山口課長、高木課長、伊藤課長、谷貝室長、
小倉主事、工藤教育長、鶴沢課長以上の出席
を求めましたので報告いたします。

会議録署名員の決定を行います。本臨時会の会
議録署名員に二番議員石井孝君、二七番議
員鈴木市蔵君、以上両君を指名いたします。
こより市議とごいせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)異議なしと認めます。よって決まりました。
会期の決定を行います。本臨時会の会期につきま

ては、議会運営協議会より意見は、本一月二十八日より三日までの三日間ということであります。

おはかりいたします。会期を三日と定めますことに
市異議ございませんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)異議ないと認めます。よって会期は三日と決定されました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

日程第一市長の施政方針並びに議案説明を求めます。
(市長 本間謙君登壇)

市長(本間謙君)本日は昭和三十八年の新春誠に多忙中とは存じましたが、当面いづれも緊急を要する案件がございましたので、あえて臨時議会

を招集いたした次第であります。

議案の説明に先立ちまして私の市政担当に対する所信を申し上げたいと存じますが、先づ昨十二月市長就任以来、健康上の理由によりまして今日まで市長という重責を十分に遂行し得なかつたことに對し、深くお詫びを申し上げる次第であります。皆様の中理解ある協力によりまして去る一月十八日、このように元氣を回復いたし、療養先より帰館することができたことに對し、衷心から感謝申し上げるとともに、今後は渾身の努力を傾注して、館山市発展のために最善を盡す所存であります。

幸いに、当市は前田村市長の努力によりまして赤字財政を見事克服、健全財政への基盤を

確立されたものでありまして、私はこの前市長のとりいた施策並びに築かれた成果を十二分に踏襲活用することは勿論のこと、私なりに常日頃、心に念じておりました方針によりまして、館山市民の福祉増進のために貢献してまいりたいと存するものであります。

市勢の伸張は豊かな、そして健全な財政のもとに、つちかわれることは、周知の事実であり、私は具体的に、この当市の財政規模を検討してみますと、昭和三十一年度当初予算額、四億八千万円において、県下十八市平均値である人口一人当り予算額一千万円に対して、館山市は八千万円、人口一人当り税収計上額五千円に対して、三千円、並びに税収計上額予算額に対する平均パーセンテージ五〇％に

對して、三六%といづれも相当下まわる数字を示して
いる。館山市の現状では、当然の結果として、五万七千の
人口に対する理想的な六億から七億の予算計上
は、とても不可能な事実であるという事を知つたので
あります。私は理事者として、又館山市のよりよい

発展をこい願うものとして、一市民として、なんとかし
て、この豊かな財政基盤の確立のために微力を盡
くして参らねばならぬという事を再認識した次第であり
ます。

而して、豊かな財政基盤確立の直接要因である産
業の振興を私の第一義として、次に観光、教育と、こ
の三点を市政推進のモットーとして参りたいと思つ
つてあります。

然しながら、高度化された近代社会において、あら

ゆる点において科学的なり、即ち、実証的なり。データー
を伴わない場合には一瞥にも値いまい。現実
において、私は市政の運用においても、釧山市の総合的
な市政診断を中央の権威者に依頼し、細密な
調査のもとに科学的に検討した。釧山市発展の指
針を早急に決定したいと存じております。

こゝと併行いたしまして、市役所機構の合理化、
行政運営の簡素化、能率化により、市民へのサー
ビスの向上を図りたいと存じます。

次に各部内列にわたり、所信の一端を申し述べ
たいと存じます。

農業部内でありますが、私は現在政府の指導
方針に基いて、実施の段階に入った農業構造
改善事業を積極的に推進するとともに、機械

化による土地改良事業の促進をわかり、農業振興の基盤を造成し、大いに近代化経営、即ち協業化の指導育成、農産物の栽培、技術指導、買手市場、経営資金の獲得等の流通対策を奨励して、房州独特の産物や育成を實現してゆきたいと思ひます。

次に水産業については、同じく漁業構造改善事業の積極的推進を図るとともに、港湾の整備充実に對して、国・県に大いにその促進陳情を続け、沿岸漁業においては、漁業の設置、稚魚、稚貝の育成等の助成、指導を行つてまいりたいと思ひます。次に商工部庁においては、永年商工会議所におきまして経験をも活用して、商工会議所と緊密な連絡をとり、商工業発展策を取り上げてゆきたいと思

います。

特に中小企業の育成のための予託金融制度の予託額三百万円も財政のゆるす範囲において増額をほかってまいり、尚、現在、和歌山市においては市独自の中小企業対策として低利資金の貸付制度を採用いたしてゐると聞いておりますが、これに対して早速調査検討いたし、出来得るならば、このような制度を当市においても採用いたして参りたいと存じます。又国民金融公庫、並びに中小企業金融公庫の枠を増大、並びに現在会議所において計画中と聞いております不燃性共同店舗の指定地又申請、店員厚生寮の建設等に対して出来る限りの協力を惜しまないものであります。

次に観光部内でありますが、観光行政は、何と一

ても当市の表看板としてまいらねばならないのでありますから、私はこゝが、取振行政機構の充実強化をはかつて、天然の風光と常に春のような暖かい氣候等の恵まれた諸条件を十二分に利用し、そこに房州独特の風格をかもしだすような新観光資源の開発、亜熱帯植物園の設置等も一策であろうかと存じますが、こゝらう方法を充分に検討いたし、極力外資導入により、解決して行きたいと思ひます。

尚現在軌道にうつてまいりました国民休暇村事業も大いに推進して参りたいと存じます。

次に教育部内につきましても、義務教育優先は、当然のことであり、近代的な学校施設の整備を重点的方式により、着々とその完成をはかると

ともに、P、T、A 経費の実情にそつた軽減をはかり、
国づくりの基盤となる「人造り」の重要性からか
んがみ、学校取算の所修を一層盛んにして行きた
いと思います。

なお、館山高枝に於ては、工業課程の増設を完
備するとともに、市財政の面からも県立移管につ
いて真剣にとりくんで参りたいと思います。

次に、建設部内におきましては、近代社会に必要な、欠
くべからざる道路網の完備を重点策としてとり
あげ、既に着々として進行をみている海岸道路の
舗装推進と併行して市内未舗装地帯の早期
完成、公園の設置についても大いに考慮してま
いりたいと存じます。

次に厚生部内におきましては、前述いたしたとおり

館山市は、観光を表看板といたうておりますので、観光都市として、恥ぢないような、都市美の造成、環境衛生の徹底をはかつて、参りたいと思ひます。

次に市政に直接関する企業誘致には、本腰を入れて、その誘致運動を展開して行かないと、館山市の市政は益々行きづつてゆくと思つて、先に言及いたうした市政診断により得た資料に基づいて、館山市に最も適した諸企業の誘致をどうし、積極的に進めたいと思ひます。

最後に市民各層のレクリエーションの場でもあり、又集會の場ともなるべき「市民会館兼体育館」の建設については、その実態調査に着手するとともに、建設方法について検討を加えてまいり、出来得れば、総合グラウンドとの併設を考慮してまいりたいと思つて

おります。

尚、勤労者対策については、種々検討の結果、出来る限り協力をしてまゐりたいと存じます。

以上、各都内にわたり所信の概略を申し述べたのであります。私はこの徹底、公正を期するため、各行政部内別に既有的なもの、之を充分に活用し、未設置のもの、は各々、その都内にさぐりた実務経験者、学識者からなる専門委員会を設け、市長の諮問機関として、広く意見を求め、市政推進の指針といたしたいのであります。

最後に米国のベリンハム市との姉妹都市として、友交関係は、今後、大いに推進いたし、両市の親善交歓等の事業を軌道にのせてまゐりたいと存じます。

以上甚だ概略ではありましたが、今後四ヶ年間の市政を担当するに当りまして、私の所信を申し述べさせていだきました。どうぞ市議会議員諸兄の市理解ある協力を切望するものであります。次に議案説明を申し上げます。

まづ昭和三八年開設を予定いたしました館山高校工業課程増設の件であります。議案第一号の館山高校校舎増築工事請負契約の締結についてでございますが、期日的にも早急を要する問題でありますので、契約を締結いたしまして、早速建築に着手いたしたいと存する次第でございます。

次に西岬地区におきます簡易水道事業の件であります。これは昨年、地元民の熱心なる要請によりまして、事務を進めて参つたのであります。

二 目 録
すが、最近ようやく、こゝが、具体化の見通しが得られ
まいので、法令規定に従いまい。こゝから早速
に手続きを要するうで今回関係事項の決議を
お願いしたいと思います。

議案第二号、簡易水道事業実施について、議案第三
号、特別会計の設置について、議案第四号、昭和
三十七年度館山市特別会計純切簡易水道事業、
歳入歳出予算、議案第五号、簡易水道工事設
計委託契約の締結について、議案第六号、簡
易水道測量工事請負契約の締結について、
議案第七号、寄付金の収受について、以上六議案
であります。

次に議案第八号、昭和三十八年度館山市歳入歳出
追加予算であります。こゝは当面やむを得ない追

加のみでございます。まして監査委員事務局の旅費一
万七千円、忠霊塔除幕式関係費、四十三万五千円、
税務第一課におきまして調査用オートバイの購入費、
計六十二万六千円の追加であります。財源といたし
ましては、前年度繰越金をもって充当いたしまして、
次に議案第九号、固定資産評価審査委員会の委
員選任についてであります。これはさう取にあり
まして和田守喜さんが去る一二日任期満了となり
ましたので、翌日付をもって引続き在取いただくこと
にいたしまして、議会の議決をお願いいたします。
次でござります。

以上極めて概略で申し上げますが、本議会に提出いた
す議案に關しまして申し上げた次であります。
なお、各議案につきましては、それぞれ上程の都度

二 自 由 討 論
担当課長から詳細に市税明申し上げますので、
十分や審議の上、市賛成下さるようお願いいたす
次第であります。

さらにこの際、申し上げますが、先般議会招集の告
示の際、付議事件として告示いたし、その関係う
ちで、と畜場会計の追加更正予算、及びと場冷蔵
施設の工事請負契約の締結について、この二議案
につき、まづは、更に一段の検討を必要と考へま
うたうで、提出を見合わせることにいたし、まづ
このとどや了解いたさなうと思ひます。

議長（山本昇君）以上で市長の施政方針、並びに議案
の説明を終りました。
暫時休憩いたします。

午前一〇時三〇分

休憩

午前一一時一〇分

再開

・議長(山本昇君)休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第二、議案第七一号を上程いたします。

この議案は去る一二月定例会におきまして、総務常任委員会に継続審査に付されたものであります。

従いまして、このより委員会における審査の経過、並びに結果について委員長が報告を求めます。

(一六番議員遠山ヨネ子君登壇)

・一六番(遠山ヨネ子君)去る一二月の本会議におきまして、総務委員会に、内会中より特別付託となり、この議案第七十一号、熊本市域水資源調査の議案につき、一月十日、二十二日の両日委員会を招集いたし

慎重に審議いたしまして。

以下委員会におきます審議の経過、並びに結果について申し上げたいと存じます。

委員会といたしましては、私ども総務委員会に付託となりました趣旨をたいしまして、再度当局の詳細なる説明を求め質疑に入りまして。

先ず水資源と一概に言っているがどんな面を調査するの、又水量が最も問題になるか、現在どうする予定をもっているかという質問に対して、市当局として最終目標は市全域でどう継続して水量が得られるかということであるが、実際の調査方法としては、ある一つの地点について表流水の水量、貯水量、ダムを作った場合のダムの高さ、堤防の長さ、貯水の水深面積、それを市街地の中心まで

もつてくると想定したとき、排水管の長さ、場所、それ
にトシ当りの経費、こういうものを調査させるのだと
いう回答がありました。尚水量については畑地点に
おいて、百万屯、一日大体二万二、三千屯の水量が年道
を通りて得られる。又仮若地点では五十万屯、
一日五千屯、神余その他については、大体五万屯以上
の水量が得られるという考えをもっているという答弁
がありました。

論議は本会議においてもいれまゝ通り、飲料水
を確保することが先決問題ではないか。この百五十
万屯の調査費は、むだ金になりはしないか、という点
に集中した。まゝだが、将来、館山市の発展すべき
方向を考えまゝたとき、どうしても水資源の調査
は必要であると同時に、現実に向かっているという事

実を認めたいであります。

最後に市民の血税である百五十万円の調査費で最大の効果をあげるべく当局にそう決意を正しましたところ、市としても初めたる仕事ではあるが、今後、こゝが執行に当たつては十二分にこれに對し、監督し、立派な調査結果が得られるように努力する旨の決意の表明があらうした。

本委員会といふことは常に市民の福祉向上を館山市の発展の爲に正しく市政執行をさぐるよう強く要望いたしましては付託をうけました。議案第七十一号は原案通り可決すべきものと認め、次第でございます。

以上をもちまして本委員会におきます審議の経過並びに結果について報告を終ります。

三番(三沢節君) 只今の委員長報告につきまゝで、私も原案について賛成するものであります。ただ、こういう話し合いが委員会の中にあつたか、というところをお尋ねいたしたいと思います。

市承知のように、館山市で中央ダムの工事をやっておりますが、これを作るについて、館山市における水資源の調査ということでは、やつておつたじゃないか、またどういう結果になつてゐるかというお話し合いがあつたかどうか。

一六番(遠山ヨネ子君) 丸山のダムの件につきまゝでは、確かにそういう調査もあつた。そのダムの水をこういう水資源の調査の上に加えた方がいいのでは、ないかという話し合いはありました。

三番(三沢節君) 中央ダムのことでなく、中央ダムを作るに

さう調査をいろいろやったと思う。やってあったらば、それをや破算にしてみよう一回始めるかどうか。

・功役(小出武男君)私もまだ資料は検討してございせんが、中央ダムをはじめ、その他にも過去において館山市の各地の水利につきましても、データーがあると聞いております。今回の調査につきましても、既存のデーターは十分取り入れましても、参考にしてもらう。そう上にさらにやる。こういう考えでございまして、今までのデーターは尊重いたしましてやる。こういう考えでございます。

・三三番(山口幸三君)只今、委員長のご報告によつて大体、わかったが、ただ説明の中に現在何万トン使つてあるかという説明がなかったように思います。現在の人口ではある程度水面に合うであろうが、十萬都市を

将来の目標にする釧根市が果してそれだけの水量で足りるかどうか。その点を聞きたいと思います。

一六番(遠山ヨネ子君)水資源調査は、ただ今、おっしゃられたように将来、どの位あるかという基礎にするための調査というものと話し合いをいたしました。

将来、幾らトン数があるかということですが、説明はありませんでした。企画課の方から、

・企画室長(谷貝茂生君)現在、水が使われている量が各都市の量からみましても普通一人でもって一日二ガロンドルの五人家庭で一世帯と見て一日一トンの水がいることになります。十萬都市ということになりますと大体二、三ガロンの世帯。一日二、三ガロントンの水が考えられます。生活水準の向上によりますますだんだん水を使う量が増えてきてゐる。そういうことを考えましたときに

二五、ワロトン後の水が必要ではないかと考えられます。
す。今回の調査はそういった水量等を、或いは工業
業関係とかそういうものを合わせまして、^{どの}位のものが
つかめるかということによつて将来の参考資料
にいたりたいということでございます。

議長（山本昇君）以上で質疑を終ります。

こいより議案第一号を採決いたします。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。
本案は、委員長の報告通り可決することに決し、
議長、ごさいせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）異議なしと認めます。よつて本案は
原案通り可決されました。

日程第三、議案第一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第一号 館山高専学校校舎増築工事請負

契約の締結について

庶務課長(鶴沢貫覚君) 議案第一号についてや説明申
—上げます。この工事に対して、指名いたしまし
た業者、津島建設、関工務店、高橋工務店、計
工務店、宇山工業、渡辺建設、石井工務店、富
士土建を指名いたしまして、一月一二日現場説明を
—しまして、一月十九日入れた一時的な結果、最低
が渡辺建設でございまして、これと五百六十三
万円で契約したいというものでございます。

なお建築坪数が合計で一四九坪あまり、坪単価に
なおりますと三万七千七百八十五円になります。

二七番(鈴木市蔵君) 教育長さん、ちよつと伺つてみたいと

思います。

本年度当初予算に工業化を三教室増に―商業科を一学級増に―たんですが、それを来年度は商業科をやめて工業化を三教室増にするというふうなことの答弁があつたのですが、教育委員会において商業をどうも減らす。工業化を三教室ふやしてやるという委員会がございましてたか。

・教育長(工藤和平君)商業課程の一学級増もいふという問題
は三七年度に限つてこういう条件づきでございまして、
ので、三八年度におきましては、これは自然解消、こ
ういうことに解釈してゐるわけでございます。

なお教育委員会におきまして、この問題につきま
すは、再確認いたしまして、商業課程は、昔にかえり
工業課程を増築しようということでございます。

・二七番(鈴木市蔵君)三七年度の商業科を学級増という

ことは、当初の予算にもあった通り説明は聞き及んでおるのであります。が、本年度は、学校の志望者が多いうで、商業科を依るといふような考えにあるかどうか。

・教育長（工藤和平君）　ございせん。

・五番（江田徳太郎君）　おけこう議案につきましても、賛成するものでございしますが、ただ五百六十三万の契約金額で、これだけの工事も完成するようになつておりますが、何しろ今う学校の敷地が埋立ってますぐにということはどうしても基礎工事というものが、相当難関があるものと思つております。これにつきましても、十か九いとかの方法が購得されるか、予算が足りないで、その点を伺いするものであります。

・庶務課長（新井重助君）　基礎の面につきましても、この予

算外に予算を残してございます。契約と同時に
あそこにくいを打たせきいてやらせる。こういう考えで
ございます。

・五番(江田徳太郎君)よくわかりました。基礎工事の面で
十かなる年は注意を——ただきき——この案に賛
成するものでございます。

・三四番(松本藤太郎君)この議案に関連してある点でござ
いますので、お伺いします。工業課程を併設
するときに特に県立移管という点が議会の中で
出たわけでございます。決して館山高校が市費を
たくさん食うということか、問題じゃございませんか、工業
である関係、館山市の子弟だけでなく、近隣の町
村の子弟もくらゆる。いろいろ設備費等でも複雑
な内容があるわけでございます。県立移管という

ことは、議会でも一ぱは向題になり、当局も移管のために金力を尽くすということとで各方面からも移管の促進についての陳情もきておるわけですが、館山高校の教職員関係、こういった方たちから、県立移管について、どうも考えになつておるか、おわかりになつたら、教えていただきたい。

・教育長（工藤和平君）最近の情報は、聞いておりませんが、かつて校長が職員に非公式に、その話をしたときに一人も反対意見は出なかった。こういうことであります。

・三四番（松本藤太郎君）最近はやかったといいますが、それは、いつ頃か知りませんが、教職員にも県立移管に今後、反対はない、こう解釈してよろしうございますが。

＝ 山 日 書 金
・教育長(工藤和平君)ふうしゃうでございます。

・三四番(松本藤太郎君) 館山高校の県立移管につきまし
て、過去にない、先輩の議員からも、P・T・Aの方から
も県立移管の要請があった。それによつて県立移
管を促進していった。ところが、同窓会、或いは教取
員から反対があったということで、議会が非常に窮
地に陥ったということをお聞いであるうでございますが、
館山高校がこうふうに設備も充実されてゐる今日、当
然県立移管という道は開かれなければならぬと思
います。そういうときに過去の例にならぬよう
失敗をくり返さぬようにその点を十分考える。そ
うして県立移管にもつて行きたい。こういうふう
に考へておりますが、教育長さん、これに對してどう
いう御見解をおもちでございますか。

・教育長（工藤和平君）館山高校の問題につきまして、
ただ今、お話がありまして、通り館山市の財政規模が
ら申しまして、二つの義務教育の学校さらに六つの幼
稚園をかかえまして、端的に申しまして、無理であるとい
う考えをもっております。

従いまして、これが一日も早く県立移管になることは私
のみならず、教育委員会見解一致の強い要請で
ございまして、私ともP・T・A、教職員、これらと一丸
となつてこれが、実現の一日も早いことを切望している
わけでございます。その線に向つて協力したい。こう
考えております。

・二入番（萩生田七郎君）教育長さんにお伺いしたいのですが、
先ほどの鈴木議員の質問に対する答弁で商業課
程の一学級増がもとに戻つて減るということになりま

すと、工業課程が三学級ふえきても、実質的には、二学級、こういうことに相なるわけでございますが、非常に今年は、中学浪人が出るのではないか、いわゆるボーフ年である私も父兄の心理を考え、できるだけ多くの人も、定員外の補欠を取ってもらいたいという希望があるわけであります。工業課程の場合、定員一学級四〇名ということが標準だそうであります。これを、これをどう位、取るか、県の教育長の方針もその方針を取ると、いうことを聞いてゐる。また工業課程につきましても、相当受入れ態勢が肝要であると思つてゐる。あります。学校の先生の方の手当、配慮、こうしたものについて、中説明と申しますが、それを願ひたいと思ひます。

・教育長（工藤和平君）も答へたいです。三八年度の高

等学校入学志望者のピークであることはお話し通り
であります。県におきましてもこれを緩和するため
に普通家庭においては限度を五五名位にしたらど
うかという意思表示をしてくあります。私どももそ
れに準じておるわけでございますが、實際の権限は校
長にあるわけでございまして、要望を申し上げることでご
ざいます。工業課程におきましては四五名に
おりますが、二三名増を校長に要望いたします。
受入れ態勢につきましてもは最初う工業課程でござ
いますので、教育は申すまでもなく人間であります
ので、最優秀の教員を網羅するようにという
ことでございまして、七名採用するところう六名まで
決定を見た。一かも相当な優秀な人材である
という二三日前の報告でございます。

議長(山本昇君)おわかりいたします。議案第一号討

論省略原案通り可決いたしますことに中異議ござい
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)異議なしと認めます。よって本案は

原案通り可決されました。

二一番(後藤ゆき君)只今可決になりました。館山高校の
工業科設置のための工事請負契約に関連いたし
まして緊急動議を提出したいと思っております。

館山高校も普通科、商業化に加えます。さらに本
年は工業科を併設し、市立とはいえ、県南の文化、
教育の施設として名実ともに充実した学校となつ
て参りました。皆さまでともに等しく喜びにあたえ
ません。しかしながらこの学校もただ今議決された

教室で足りるということではなく更に今後必要とせら
れるであります。普通教室の建設、教具、教材
さらにもっとも重要な専門的教師の採用等にむこう
数カ年度に及ぶであろうということも考えられます。
その諸経費は莫大な数字となるであろうことか予
想されるのであります。

一方、小中学校の義務教育諸経費も時代趨勢と
相まうていよいよ向上線を進みつつあるときかねてより
この館山高校をよりよき学校とするためには、大きな
経済力の中で一二分の施設を実施し、広範囲の人
事交流をはかり、いわゆる優秀教員を確保して
総合高校として恒久的な発展を期するため、果
然に移管という問題が一ぱい出たのであります。
本議会におきまして、論じられてきたのであります。

本日、第一号議案の可決を期として、こゝと同時に
県主移管の意思を決定し、県当局に対して強
固な態度をもって当り得る態勢を整えたいと
思います。幸いにして、満場の皆さまでの賛成
を得らるならば、その取扱いを議長に一任し、
かるべく手段と方法を講じられ、こゝで目的達成
にや努力下さるようお願ひ申し上げて、緊急動議
を提出いたします。

三四番(松本藤太郎君)只今の二一番議員の動議に賛
成いたします。

二九番(萩生田七郎君)ただ今の緊急動議賛成でございます。

一二番(嶋貫壮依君)ただ今の動議に賛成いたします。

議長(山本昇君)只今、二一番議員君より、館山高校の県
主移管についての動議が提出されました。本動議

は、所定の賛成者がありますので、成立いたしました。
おはかりいたします。

本動議を本日の日程に追加し直ちに議題といたし
ますことに仰異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)仰異議なしと認めます。よって日程は、
追加されました。

おはかりいたします。只今、議題となりました館山高校
の移管に関する要望書の起草は、いかばかりでしょうか。
・二番(嶋貫壮作君)要望書の起草でございますが、議長
と文教民生委員に委託したいと思っております。

議長(山本昇君)二番議員君の意見は、要望書案は
文教委員会において作成したということでございます。
これに仰異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）異議なしと認めます。よって決定いた
しました。

暫時休憩いたします。

午前一一時四三分

休憩

午前一一時五二分

再開

議長（山本昇君）休憩前に引き続き会議を開きます。

ただ今、文教委員会の諸君より決議書案が提出さ
れました。

館山市立館山高等学校の県立移管についての要望
決議案を議題といたします。

文教民生委員長より要望書の朗読をいたします。

・二一番(後藤ゆう君) 館山市立館山高等学校の県立移管
について別紙の通り決議要望書を提出する。昭和
三八年一月二八日 館山市議会議員、文教民生委員、
千葉県において工業開発が急速かつ、大規模に進
められている現状において工業高校は、県北に偏在し
安房地方の工業高校進学希望者はほとんど通学
不可能の状況にある。加うるに昭和三八年度から
四〇年度にかけて高校進学志望者は急増の状況
にあるので、安房地方の市町村にぞつて、県立工業
高校の誘致に努力したにもかかわらず、その見通し
は、困難視されるに至つたため、やむなく、昭和三八年
度より 館山市立館山高等学校に工業課程三学
級を新設することとした。

一からながら、これに要する施設、設備費は莫大

な額となり、貧弱財政の鑑山市がこれを經營することとは、将来、市財政を極端に圧迫していく恐れが十分考えられるのみならず、学校、そのものの教育効果を發揮する上においても、緊要なことなので、早急に県立移管の方途を講じられるよう強く要望する。

右決議する。

昭和三八年一月二八日

鑑山市議会

議長（山本昇君）只今、文教委員長の報告による鑑山市立鑑山高等学校の県立移管についての要望書を原案通り決定いたしますことに、中異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）異議なしと認めます。よって本要望書は、全会一致で決定されました。これが取扱いと

して議長において責任をもちまゐりて処理すること
を市報告申上げます。

・一二番（嶋貫壮作君）館山市の場合にはこゝで済んだんで
すが、近隣町村にまで働きかけて、何らかの処置にお
いて、同様の要望書を作ってもらふことにはできませんか。
・議長（山本昇君）只今の市意見でもっともと思ひますので、
他の町村に対して連絡申上げまゐりて、さうにしてい
ただくように推進いたします。
暫時休憩いたします。

午前 一時五八分 休憩

午後 一時一七分 再開

・議長（山本昇君）午後へ出席議員数二八名。

休憩前に引続き会議を開きます。

日程才四議案第二号乃至才七号を一括上程いたします。

(書記朗読)

議案第二号 簡易水道事業実施について

議案第三号 特別会計の設置について

議案第四号 昭和三七年度館山市特別会計鉅切

簡易水道事業歳入歳出予算

議案第五号 簡易水道工事設計委託契約の締

結について

議案第六号 簡易水道測量工事請負契約の

締結について

議案第七号 寄附金を受取について

議長(山本昇君)ただ今朗読いたしまして、議事進

行上議案二、三、四号を一括説明、質疑を行い、次に
議案五、六号を一括し、次に七号、こういう順序で
いたりたいと思いますので、仰る承願います。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)簡易水道関係の議案につきま
して、申し上げたいと思います。まづ、二号議案であ
りますが、これは見物、早物、その他、五部落を給水地
帯として、簡易水道を昭和三八年度において実
施するのだという意思表示の議案でございます。

この事業の概要につきましては、現在予定して
おりますものを別紙に概要書として印刷しており
ますので、御覧いただきたいと思います。

まず、給水人口の把握でございますが、見物が三〇人
早物一二〇人、決田二〇〇人、漸見三三〇人、香三九
人、旅館一五〇人、中学校三八〇人、小学校二九〇人

その他、三三〇、合計二、四〇〇人を計画人口といた
まゝ、それに伴います。簡易水道事業を考へて
おるわけでございます。現在の給水人口に若干
の余裕をみまゝ、二、四〇〇人程度を一応計画
人口としておさえたわけでございます。

次に事業の内容でございますが、ここにも書いて
ございますように水源施設、その他、工事をも区
分いたしまして、合計約千六百万円とおさえたわけ
でございます。次に補助対象になりません。単独事
業でございますが、試験工事、その他の雑工事、
事業調査設計費、その他の一般事務費、それらを
二百万とおさえて、これは、対象外費用として計
画しておるわけでございます。合計千八百万円の見
込みをもちまして、本工事を実施したいという考

えてございます。

次に千八百万円に対します工事費の財産見込みで
ございしますが、まず、国庫補助金、これは補助対象
事業の三分の二を考えまして、四百万円、県費補
助として百万円、起債として八百万円、市費の繰入
金といまして五百万円、この市費の繰入金の
件でございしますが、これは受益者の負担、つまり
寄付金等の関係全部を含めまして、五百万円でこ
ざいます。

これは形式上、受益者の負担額を寄付金といた
りまして一般会計に繰り入れまして、一般会計か
ら水道事業へ繰り出をするという形式を取り
ますので、繰入金として五百万円を考えたわけで
ございます。このうち、四百三十五万円を受益者の

負担金、六十五万円を事実上の市費の繰入金という予定にいたしまして考えております。

次の三号議案でございますが、これはただ今、申し上げました簡易水道事業を三八年度に実施いたす下準備といたしまして、事前に調査設計の必要がございますので、これから費用を特別会計として設けまして三七年度に実施いたしたいと思います。でございます。三八年度に実施いたしますには、この二月下旬までに認可申請の手続を取らなないと向に合いません。認可申請をいたしますには、当然これは付属いたします測量、設計が必要でございますので、三七年度にこの調査並びに設計の費用を特別会計といたしましてお願いいたしたいというわけでございます。三号議案はその

意味におきます特別会計を設ける議案でございます。

第四号議案は、ただ今申しました特別会計の三十七年度におきます予算でございます。

まず歳出は、ここにもございますように調査費といたりまして、百三十五万円を計上いたしまして、その内訳といましては、設計の委託料が八十九万四千円、測量の委託料が三十万円、合計百十九万四千円の委託料でございます。試掘と水量

検査の仕事といまして十五万六千円を予定いたしまして、合計百三十五万円の支出をお願いいたしたい。その財源といましては、ここにございまして、ように金額地元の受益者の寄付金ということで予算を計上いたしました。

議長(山本昇君)以上で議案二、三、四号の説明を終り
ましてこれに対する質疑もございませんか。

・三三番(山口幸三君)ただ今の説明で大体わかりま
したが、合併してから特に水が不足してきただのか。それ
から水源はこの構想で心配ないという見通しで
これを提出されたか。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)才一点でございますが、合併
してから、急に水がなくなつたというこは、恐らくな
いと思います。ただ、今までの状況をお聞きいた
ますと、前々から非常にこの地区におきましては、
水に困つておったという事実はあつたのであります。
一かゝ、簡易水道事業といひますと、相当額の金
額の伴う仕事でございますので、なかなか考へて
おたけれども、今まで踏み切れなかつたというふうな

事情でございます。

次のオ二点でございますが、すでにある程度の試掘を実施いたしましてただ今、申し上げた給水人口をまかなう程度の水源はおおよそ確保したわけでございます。

一五番(嶋田繁君)大体、この^案につまきましては、賛成するものであります。水について非常に苦んでおる地帯もいくつかあると私は思っております。もちろん、これには水源というものも必要である相当の水源を見出すことが肝要であります。それがおおよそ見込みがついて市当りにお願いした場合には水源を調査していただけて十分これでやり得るという見通しができまして、場合によって簡易水道をやつてやろうという意欲がございますかどうか。

・厚生課長(伊藤幸太郎君) 私ども係といたしましては、水量が確保され、さらに地元の受益者の熱意が盛り上って参った場合には、幾つでも多くやってあげたいという気持ちであります。ただし、これは補助金その他の伴う仕事でございまして、ただ掌にこちらだけの都合でいかない場合もございまして、それらをにらみ合わせてできるだけ多くやっていきないう、このように考えております。

・一 二 番(嶋貫壮作君) 水源の問題について伺います。水源はすでに試験済みでございすか。それから、寄付金は、地元民と、町に了解ができておりますか。・厚生課長(伊藤幸太郎君) 水源の問題はただ今、申し上げましたように、一応試験をある程度、完了いたしまして、中町の水量検査をいたしまして、おおよそ二、四、五

人程度に対する水量と一ては、ほぼ確實というふうな
水量検査をいたしております。なお正式の井戸のこと
については、今まで取りかかっておりません。

それから、寄付金や肉題でございしますが、これはのち
ほど議案として提出いたすわけでございますが、
すでに地元との話し合いも十分いたしまして、寄
付の申込みもありますので、確實でございます。

・二九番（萩生田七郎君）今の説明によりますと、千八百万
円のうち、国庫補助金が四百万、県費百万、市費
五百万のうち、四百二十五万を地元負担金を願う
わけでありますから、市費が八百六十五万、地元
負担金が今回、百三十五万を含めて、五百七十万
こう解釈してよろしいと思っております。

こうした膨大な寄付金を一て、地元民がやってく

れということに對して、敵意をはらうと同時に市当局としても希望地区があれば、積極的にやるうだという意向をきわめて結構だと思ひます。が、今後問題として、房州水道が給水区域というものを設定してゐる。こうした地域にこれも包含しておる。この解決いたします。

将来の文化都市を建設する場合において上水道の問題はきわめて重大な問題であると思ふ。

こうした市である以上将来の見通しというものを考えた場合、房州水道とう関連性を考えてスムーズな運営について特段の配慮を願ひなければならぬ。と同時に先ほどの議決された水源調査の問題も簡易水道の問題、地元の要望に応えて、その都度場所を設定していくことを考え、上水道

等の計画というものと関連性、こういうものを考
慮して今後基本的な立案をして、こういう事業
を積極的に推進すべきだ。かように思うのであり
ますけれども当局の御見解を承わりたいと思いま
す。厚生課長（伊藤幸太郎君）只今のお話の通りだと思
いますけれども、ただ私も考えますことは、簡易水道と
いう名称に對します趣旨の問題と思うわけでござ
います。これは申し上げるまでもなく、一定の限られた
部分の非常に困るところの簡易水道事業として
やるわけでございまして、市全体の問題、或いはもっと
広範囲の水道事業ということになりますと、当然
簡易水道とは別な考え方や設計、計画というもの
が必要になるだろう。かように考えるわけでございま
す。

この問題につきましても、実はすでに、波左衛門の簡
易水道を市営でやっておりますので、私ども当初
の見込みといつてしまつては、波左衛門と鉤切の水道
を一諸にして今後の運営を以て参りたいという
考へでおつたわけでございますが、県の指導により
まゝで一応、今回の鉤切の問題は事業計画年度
であるので、今後の運営年度に入るまではやはり
特別会計でやっておることゝ方がよろしいのだという
指導のもとに特別会計を設けた次第でございます。一
今後運営その他、面につきましても、できるだけ、
全体的なもので考へて運営して参るようにならな
い。こゝのように考へております。

○二九番(萩生田七郎君)市趣旨わかりました。これからの
必要の箇所は簡易水道による施設というものは、

ケースバイケースでいくんだ。結構だと思う。——か——持
来、市全域を中心とした上水道の給水というものに
対する構想というものがすみやかに確立されて、それ
に包含された関連性のある一貫した仕事と——水運
管のできるように持段の調査・計画を立案されるよ
うに望むものであります。

九番(吉田勇治郎君)概要書の内容を見ますと、各部落
各学校系数的によくでておりますが旅館の一五〇人と
いうのは何か対象でありますか。それから国民宿舎
この仕事の問題については、どのような考えをもつ
ておられますか。

厚生課長(伊藤幸太郎君)旅館の一五〇人のおさえ方は見
物に旅館が一軒ございます。

さらに各学校の寮等も二三ございますので、それらを

一、予想——一五〇人という数をおさえたわけ
でございます。

鳩山荘の問題につきましては、観光係の方とも十
分話し合っておりますけれども、当然鳩山荘とい
うまゝでも水道が設けられることはよろしいと
いう見解のもとに是非この中に加えてもらうとい
うような方法に話し合いを進めております。

その水源といたしましては、その他三三〇人とい
う数字がございますが、それらを含めまして、余裕
水源ということに考えております。

九番(吉田勇治郎君)鳩山荘は申し上げるまでもなく
館山市の観光の基幹をなしてゐるといっても現
在ではなからうかと思ひます。本事業において水
の恩恵をこうむる、かような観点に立つたならば、もう

少し、地元ゝ負担金について考慮すべきが本来いやは
かろうか。いわばもう少し、積極性をもって給水、或い
は水源の確保に積極性をもって、一かるべきが本来
ではなかろうかと考える一人であります。この予算
の説明でいきますと、六十五万の補助、さらに八百万
の起債だつて市の補助だ。かように言われるでしう
が、今は地域民が主体になつて、そのあとに市がつい
ていくというあり方にこの事業は見受けられるの
であります。現実にはさうだと仄聞するのであります
が、あの海岸を開発し、観光のシンボルとしようとし
するならば、もう少し、市は積極性をもつた考へ方
のもとに本事業を推進していくのが、妥当ではな
かろうかと考えるものであります。この点、今後のあり
方についていかうな考へ方をもつておられるか、お伺い

— 自 己 的 考 察 —
— たいと思います。

・厚生課長(伊藤幸太郎君) 受益者の負担の問題でございしますが、これは先ほどもちよつと申し上げたと思ひますが、簡易水道事業という趣旨から参りますとやはり受益者の負担を中へ入れた事業ということ、で国や県あたりも指導しておるわけでございます。といひますが、簡易水道事業はあくまでも部分的な水道事業でございしますので、こういういき方が、普通のいき方としてあるわけでございます。

既に西岬地区におきまして、波左衛門、加賀名う水道が実施されておりますので、それらとくらひ合わせを十分考へまして、先例にならつた純然たる市費の持出しを六十五万というふうに考へたわけであります。

それから、今後の国民休暇村等に対します考へ方

の問題でございますが、これもこの問題が起りましたと同時に私も十分考えたわけでございますが、何回も申しますように、国民休暇村の問題を含めまして、給水針に対する国の考え方がどうかということになります。第一点でございます。現在、あくまでも受益者を中心とした水量でございますので、もし、将来、休暇村等を考えた上り設計ということになりますと、相当金額もはって参ります。国が認可いたしますのに、これらの計画を織りまぜて補助金や認可を果して、厚生省で考えておられるかどうか。これを後日、国に参りまして、とくと、相談いたす予定であります。

今までのところ、単に現在の標準人口を中心にした、あるいは簡易水道事業ということで、将来の問題は、今、申し上げますように、今後の問題として、十分検討し

二 食 口 請 合
て参りたいということでございます。

九番(吉田勇治郎君)簡易水道に対する市説明は了解
いたしました。なお一言申し上げたいと思うのは、私
が今まで申した中にもその意味が包含されておった
かもいけません。国民休暇村というふうな大きな事
業があそこに導入されるということになると、当然水
というものが一番に問題になることでありまして、そ
の恩恵を地元民にこうむらうてやることこそ、真の
行政であり方ではないかと思うのであります。簡易
水道法上、いた方がないとすれば、やむを得ません
けれども今後の指導において、十分なる注意をは
らっていただきたいと思うのであります。

以上申し上げて了解いたします。

議長(山本昇君)議案第五号、六号の説明並びに質疑を

行います。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)第五号議案でございますが、これは、先ほど申し上げました認可申請に添付いたすべく設計、その他事前調査の関係の請負契約をお願ひいたわけでございます。

まず、設計の委託を八十九万四千円をもちまして、東京設計事務所と随意契約によつて結ぶたいというわけでございますが、この設計事務所を選定するに当りましては、県関係水道関係の方々の推薦をいただきまして決定をいたしたわけでございます。

六号議案につきましては、これに付属いたしますところの測量の実施をいたすわけでございますので、同じく東京設計事務所へ委託をいたしまして、三十万円をもって実施いたしたいというわけでございます。

す。

議長(山本昇君) 中質疑ないようですから、議案オセ号の説明並びに質疑を願います。

厚生課長(伊藤幸太郎君) 第七号議案は、簡易水道敷設同盟会が百三十五万円を寄付し申込みがございまして、たゞで予算の関係もございしますので、この寄付金を受取たいというわけでございます。

この寄付の申込みにつきましては、別紙の通り印刷してございまして、よろしく願います。

議長(山本昇君) おはかりいたします。

議案第二号、及至第七号一括討論省略原案通り可決いたしますことに、中異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) 異議なしと認めます。よって原案通り

リ可決せられました。

続いて日程第五議案第八号を上程いたします。
暫時休憩いたします。

午後一時五十分

休憩

午後一時五十分

再開

議長（山本昇君）休憩前に引き続き会議を開きます。
ただ今上程いたしました議案第八号を朗読いたします。

（書記朗読）

議案第八号 昭和三十七年度館山市歳入歳出追加予算
・総務課長（山口実君）議案第八号について説明申し上げます。

第二款市役所費、監査費といた—ま—て、旅費で一
万七千円計上いた—ま—た。これは当初予算に計
画—ておりま—た今回監査事務研修会が実施さ
れる予定が生じたので、必要な経費を計上—たので
ございます。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)次の厚生援護費でございす
が、この費用は全部忠霊塔の除幕式に必要な
経費の追加をお願いいた—ま—た。

消耗品費といた—ま—て、除幕式の記念品代
八万円、これは忠霊塔の竣工を記念いた—ま—
て各市遺族に手拭いを渡—たいということでご
ざいます。

次に七万五千円の食糧費でございすすが、これは
除幕式の来賓等の接待費を予定いた—ま—た。

印刷製本の十九万円、これは忠霊塔の記念とい
まして今までの経過とこの塔におまつりいたしま
す戦没者の全員の方々の名簿を一冊にいたしまして
各市遺族にお渡しいたしたいという印刷費でこ
ざいます。

工事請負費十九万円でございますが、忠霊塔がで
きましてたけいども、前々地面が非常に高低が多う
ございますので、この際、整地をいたしまして平に
いたしたい。それから納骨堂の中に各遺族が位
牌を全部入れる計画でございますので、その棚吊り
の工事、その他を見込みまして、九万円お願いいた
たいというものでございます。

・税務第一課長(高木哲三君)一三款、諸支出金について
申上げます。徴税費におきまして、二十一万追加

お願いいたしまして、これは土地の評価が充等
でオートバイが必要になりまして、一二五ccを二台
購入することで提案した次第でございます。

・総務課長(山口実君)歳出今回追加額、六十六万二千円、合
計五億三千三百十四万八千二百円、この追加財源は、
前年度繰越金をもって充当いたしまして。

・九番(吉田勇治郎君)オートバイの購入ができてきたのですが、
この購入方法はどうかっておりますか。価格の決
定、車種の決定はいかうしておりますか。

・総務課長(山口実君)車種の決定につきましては、使
用する主管課の要望を一応参考にいたします。
それから、こちらの車を扱う市内の業者を選考
いたしまして、見積り合わせを取って現在のところ
は購入しております。

・九番（吉田勇治郎君）見積り合わせを取って決定して
おるということですが、仄聞するに適当に総務課に
縁故があつたから、それから買つたということが、過去
にあつたやに承つております。こういうオートバイ
なんかは、同業者が非常に多い。同じ市民であり
ますのでこういう場合、特定なことをしないことが、一
番いいじゃないか。かように信じるものです。そうい
うことでできる限り配慮して皆さんに恩恵をこう
むらせるような購入方法をしていただきたいと思
います。もし私の考えに間違ひがあつたならば即
答弁を願いたい。

・総務課長（山口実君）只今吉田議員のおっしゃるような特
別の人を指定して購入した前例はございせん。
いつも見積り合わせをして車種を決定して購入

する。かような事務手続を取っております。

・三三番(山口幸三君)「こま犬」を作るということを聞
いておりますが、これを作るかどうか、それから、納
骨堂その他を含めて、いつ頃できるか、除幕式、
慰霊祭をいつ頃やるか、それから、除幕招魂祭をや
る場合には、神道でやる予定であるか、仏教でやる
のか。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)市といな—ま—では、現在「こ
ま犬」の関係はタ—チ—ておりません。というのは、遺族
会と—て進めるものでございます。納骨堂

と申—上げま—たうは、すでにこれはできておるわけで
ございますが、その中に各族のお気持と—て、位牌を
入れたいということとでございしますので、棚すり工事
をいた—たいというわけでございます。

それから、日取りの点でございますが、これはまだ未定でございます。神道の仏かということでございますが、こゝろもまだ決定しておりません。

・三三番（山口幸三君）整地の問題があつたが、よほど砂を入らなければ整地にならないと思うが、どの位運ぶのか、地元として、区役所、遺族会、婦人部の方から若干の応援して奉仕するという段取りになつてゐるが、その連絡は今だにないのだが、いつ頃、砂をもつてくるのか。それから不思議に思うのは、燈籠でございますが、あれは一金、十万円なり、衆議院議員水田三喜男、中村庸一郎、社会福祉協議会というふうに書いてあるが、正直に考えてハテナという点があるが、本当に十万円ずついたのか、現在ほつてあるものが正しい表示であるか、それを参考

に聞いてみたいと思います。

・厚生課長（伊藤幸太郎君）ただ今の寄付の問題は、役所は全然タッチしておりません。遺族会として進めたものでございます。

それから、砂の問題でございますが、私も予定いたしましたのが、これは建設課等にも意見を伺ったのであります。自動車で一五センチ程度ということとで予定してございます。この整地の工事も追加予算をお願いして、通り次才、なるべく早く進めて参りたいと考えております。

・三三番（山口幸三君）只今う燈籠の問題を聞いたが、不思議に思うのは、遺族会が主体性をもってやったのか、市役所でやったのか、その点がわからない。

・厚生課長（伊藤幸太郎君）市役所は、全然タッチしてお

りません。改めて申し上げます。遺族会が寄付をお願いや、受取り全部おやりになったものでございます。三番(三沢節君)予算の面で確かめたいと思います。まず当初予算で二百万を組んで置き、さらに追加で五十三万だったと思いますが、そううちに遺族会で追加寄付として二十三万だか追加ということでしたが、協議会の言葉では、それ位の金は金額計算でもって払ったかどうかということでしたが、二十三万というものがやはり遺族会から出されているように思われます。その後の経過は、どうなっておりますのか、その点を承けたいと思います。

私も交友会^員になっておりますが、寄付をいただくにききたか、それは別途だということですので、こま犬を作ったのですわ、燈籠ですわ。

・厚生課長（伊藤幸太郎君）その金がどっちの方に回ったか私どもの方ではわかりかねます。それから協議会でのお話の点は私わかりません。

・議長（山本昇君）暫時休憩いたします。

午後二時一三分 休憩

午後二時一七分 再開

・議長（山本昇君）再開いたします。

・助役（小出武男君）只今、三次議員からの質問でございまして、去る議会に記念碑の予算が膨張いたしましてためにそれによる追加金として、二十一万円を追加して議会を通っていたのであります。この二十一万円につきましては、後日、遺族会と協議

をして、云々ということの含みをもっておつたのでござ
います。ところが、今度、除幕式ということについて
て、市は金額もつことにいたしましたので、これを
含めまして、遺族会とさらに折衝しておるので、今
の考へでは、歳入欠陥にならないように処置したい
という考へは、もつております。細かい折衝はまだ
完結しておりません。

議長（山本昇君）おわかりいたします。

議案ヲハ号原案通り可決いたしますことに中興議
ございせんか。

（「中興議なしと呼ぶ者あり」）

議長（山本昇君）中興議なしと認めます。よつて本案
は、原案通り可決されました。

本日の会議はこれにて散会といたし、次会は明後

一月三〇日午後二時閉会といたします。

その議事は施政方針に対する質問、及び本日の日程の残りといいたします。

散会いたします。

午後二時二〇分散会

本日の会議に付いた事件。

一 閉会

一 議長報告（出席説明者）

一 会議録署名議員指名

一 会期決定

一 市長施政方針並びに議案説明

一 議案ヲ七一号

一議案第一号ないし第八号

出席議員

山本 昇	石井 孝
三沢 節	小林寅之助
江田徳太郎	鈴木彦太郎
吉田勇治郎	佐野 信
嶋貫壮作	安沢徳順
法木嗣郎	嶋田 繁
遠山三木子	志村信作
安西政治	田中忠蔵
北山茂雄	後藤藤巾之
田中祿郎	吉田辰雄
飯田義男	脇田順一

岩崎靜敬

鈴木市藏

加藤良太郎

萩生田七郎

長谷川光江

鈴木孝

山口幸三

松本藤太郎

黒川佐太郎

山口康

